





チャンス・チャレンジ・チェンジ






秋田県立養護学校天王みどり学園 加賀谷 勝



子どもの問題行動への6つの対処法



- 1 代替行動を教えて適切な行動に導く 参考文献「発達障害の子どもを伸ばす 魔法の言葉かけ」
 - ・感覚刺激がほしくて周りの物を手当たり次第に叩き続ける行動に対しては、「これを叩こうね」と太鼓やタンバリンを与える。他の物を叩く行動が止まったら「それでいいよ、上手に叩けたね」とほめて強化する。問題行動を同時にできない行動に誘導するのがポイント。水道の水を出しては止めることを繰り返す行動に夢中になっているときは、「ボール投げしよう」などと、他にすることを提案して気持ちを切り替える。
- 2 問題行動に注目を与えず、適切な行動をしたときにほめて消去する
 - ・何度も席を立つ子どもに「席に座りなさい」と注意を与えず、自分から座ったときに「一人で座れたね、それでいいんだよ」と、よい行動に注目して強化する。
 - ・子どもが「寂しい」「悔しい」という気持ちになったときや、何かを我慢してしてかんしゃくを起こした場合は、「悔しかったね」と共感する言葉をかけて落ち着くまで待つ。
 - ・子どもが未学習、誤学習、学習不足の場合には、問題行動を無視してもうまいかないので、見極めが大切となる。
- 3 「〇〇したら△△しようね」と交渉する
 -  「そろそろ勉強しようか」 →  「やだ、ゲームやっているから」
 -  「いいよ、勉強終わったらゲームをやっていいよ」
 - 
 - 子どもにどうしたらやりたいことができるかを提示して、適切な行動へと導く。
 - ×「アメあげるから、静かにしてね」
 - 「おとなしくなったら、アメ食べようね」

やるべきことが先、楽しみは後！
- 4 選択肢を与えて、子どもが選ぶ
 -  「宿題やるるか」 →  「え～、やならな～い」
 -  「6時からやる？ 6時10分からやる」 →  「10分からやるよ」
 - やるべきことを2つ提示して、子ども本人が選ぶと、自分の意思が通ったという満足感が得られ、実行に移しやすくなる。
- 5 トークンを活用し、困った行動を減らす (よい行動をしたらシール等をもらい、それが貯まれば褒美がもらえる)
 - ・効果を上げるためには、最初はシールを1枚貯まったらすぐにごほうびを与える。シールを集めてごほうびをもらう達成感を味わわせたら、ごほうびがもらえるまでに集めなければならないシールの数を徐々に増やしていき、システムを理解させると同時に、子どものモチベーションを持続させる。失敗したときは「残念だったね。明日また頑張ろう」と、子どものやる気が持続するような言葉をかけ、台紙に×をつけたりしない。
 - 
- 6 事前に警告し、破ったらペナルティーを
 - ・ペナルティーは、子どものやりたいことや好きなものを取り上げる。ポイントは、ペナルティーを与えるのは短期間にとどめること。長くても1日が目安。期間が長すぎると、子どもの反発が強くなり、問題行動がエスカレートする。怖い顔で指示を繰り返していると、警告の効果が半減する。親の笑顔が増えれば、子どもも笑顔になる。子どもの心が満たされると、問題行動は自然に減っていく。